

2026. 1. 25 (日) コロサイ 2:6~7

2:6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。

2:7 キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおり信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい。

#### <説教>

使徒パウロは、〈あなたがた〉(2:6)即ち〈コロサイにいる聖徒たち、キリストにある忠実な兄弟たち〉(1:1)の〈秩序と、キリストに対する堅い信仰を見て喜んでいます〉(2:5)。彼らの〈秩序〉とは、後に(2:16)否定されるような「食物や日についての決まりごと」を単に、また律法的、迷信的に守ることではありませんでした。それは「愛するエパフラスから学んだ福音」(1:7)を受け入れ、教えられたことに忠実に、誠実に向き合い、互いに励まし合い、戒め合って従うところの教会の〈秩序〉でした。そして〈キリストに対する堅い信仰〉による〈秩序〉でした。そういうコロサイの教会の聖徒たちの〈秩序と、キリストに対する堅い信仰を見て喜〉んだパウロは、いっそう彼らを励ますべく命じて言います。「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。キリストのうちに根ざしなさい。(キリストのうちに)建てられなさい。教えられたとおり信仰を堅くしなさい。あふれるばかりに感謝しなさい」と。

あなたがたは既にひとたびキリスト・イエスを「主」と認め、信じ、受け入れ、告白している、とパウロは言います。キリストがあなたがたの「かしら」、「すべてのことにおいて第一の者」であり(1:18)、「すべての支配と権威のかしら」です(2:10)。その主なるキリストに対するコロサイの教会の人々信仰は、揺れ動いているようなものではなく、堅く、しっかりとしている。それは本当に良いこと、喜ばしいことだ。ならば、だからこそ、ますます、いっそう「キリストにあって歩みなさい」とパウロは励します。人生のあらゆる領域で、生涯の全行程で、キリストに従い、キリストとともに、キリストと一致して生活しなさいと言います。「キリストにあって歩みなさい」。これが、パウロがこの手紙を書いた大きな目的でした。

「キリストにあって歩む」とはどういう歩み、生活なのか、続けてパウロは四つの面から説明します。第一に「植物」の例えを用います。「キリストのうちに根ざしなさい」と。「根ざす」とは「根が土の中に入る。根付く」ことです。根の役割は、成長(cf.1:10, 2:19)といのちのために水や栄養分を吸収すること、そして植物のからだを支えることです。確かにそうです。教会、キリスト者にとって、主キリスト・イエスこそがいのちの基、からだとたましいの養い主、救い主、揺るがない支えです。根が地中に深くしっかりと延び、広がっていれば、それだけ多くの水分、栄養分を得ることができます。キリスト者にとっての成長、いのちのための栄養はもちろん「キリストのみことば」です。「キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と靈の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい」(3:16)。「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです」(Iペテロ 2:2 新改訳3版)。そして根が地中に深く

しっかりと延び、広がり、根付いていればいるだけ、風や嵐に曝されても、また大水が押し寄せてても耐えて、倒れることはあります。パウロはすぐ後に続けて「キリストによらない、人間の言い伝えによる、この世のもろもろの靈による、空しいだましごとの哲学」に注意するように命じます(8)。もし「キリストのうちに根差し」ているなら、「人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長する」(エペソ 4:14-15)ことができます。逆にもしもキリストでないもの、この世の人間や、人間の言い伝えによる、この世のもろもろの靈による、空しいだましごとの教えに根ざしたらどうなるでしょう。もしそのまま放っておかれたらどうなるでしょう。たちまちにあるいは少しづつ毒や不純物を取り込み、根もからだも腐り、成長は止まり、ついには枯れて死んでしまいます。ですから「キリストのうちに根ざす」ことがどうしても必要です。

次に、「キリストにあって歩む」ことを「建物」の例で説明します。「キリストのうちに建てられる」と。これは昨年の聖句(エペソ 2:20)でも言われていたことです。「キリストとキリストのみことばを受けた使徒たちと預言者たちの教え」がキリスト教会、キリスト者の依って立つ「礎石、要の石、土台」です。また、生活の設計者、監督、維持者、基準です。そのキリストの基準、ご計画のとおりに、みこころにかなうように建てあげる必要があります。もし途中で「ずれ」「歪み」等があることに気付いたときには、すぐにキリストによって正していただく必要があります。そうでなければ、嵐や洪水のときに簡単に流され、ひどい倒れ方となってしまいます(cf.マタイ 7:24-27)。

「キリストにあって歩む」ことの第三は、「教えられたとおり信仰を堅くする」ことです。コロサイの教会にあってはエパフラスをから学んだ福音の教えのとおりに、ということでした。その教えは「キリストのうちに根ざし、建てられた」教えです。そうであればこそ、それを語る人、聞く人、学ぶ人の信仰が堅くされるのです。キリスト者は、教会の内外を問わず、各自が主によって配置された場でキリストのみことばによって「教えられる者」であると同時にキリストのみことばを「教える者」でもあります。ゆえにまず自分自身が「キリストのうちに根ざし、建てられ」る必要がいつもあります。

そうやって「キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおり信仰を堅く」して「キリストにあって歩む」人は、決して高ぶったり、傲慢になったりしません。否、常に自らの高ぶり、傲慢の罪を認めて、悔い改め、へりくだります。そしてそのような恵みの基であり、機会を与えてくださるキリストにひたすら「あふれるばかりの感謝」を献げます。そして「ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行う」のです(3:17)。

私たち教会、キリスト者は確かに今この世に神によって配置されており、この地上が生活の場です。しかしパウロのことばによれば、私たちが根ざしているのはこの世、地上ではなく、「キリストのうちに」「キリストにあって」です。私たちはキリストをかしらとする「キリストのからだ」です。私たちはそのことに徹し、キリストにあって歩む教会、キリストのうちに根ざす教会、キリストのうちに建てられり教会、キリストにあって教えられたとおり信仰を堅くする教会、キリストにあってあふれるばかりに感謝する教会でありたいと願い祈ります。キリストがそうお命じになっていますので、それらはキリストの

みこころにかなつた願い祈りです。ならばキリストがそのようにしてくださいます。私たちに必要な信仰、知恵、力などすべては祈り求めるならキリストが必ず与えてくださいます。この主イエス・キリストだけが私たちの希望です。